

労災疾病臨床研究事業費補助金

復職コーディネーターによる介入事例
データベース作成に関する研究

(160601-02)

平成28年度 総括研究報告書

研究代表者 豊田 章宏

平成29(2017)年 3月

目 次

- I. 総括研究報告
復職コーディネーターによる介入事例データベース作成に関する研究 -- 1 ~ 6
豊田章宏
- II. 分担研究報告
なし
- III. 研究成果の刊行に関する一覧表
なし

労災疾病臨床研究事業費補助金
総括研究報告書

復職コーディネーターによる介入事例データベース作成に関する研究

研究代表者 豊田章宏 労働者健康安全機構 中国労災病院
リハビリテーション科部長

研究要旨

脳卒中等により長期療養を余儀なくされた労働者が復職する場合には、疾病そのものの重症度はもちろんであるが、医療費や個々の生活環境やその他の療養状況、および職場環境などが大きく影響するが、これらを多角的に分析した研究は少ない。一方で労災病院においては、治療就労両立支援センターを設置し、平成 27 年度から両立支援コーディネーターを導入したモデル事業を開始している。本研究では先行研究や両立支援コーディネーターの実績を基にして、復職に影響を及ぼすであろう多因子を抽出し、各因子の評価を入力したデータベースを作成することを目的とした。

研究 1 年目にあたる平成 28 年度は、研究班員と両立支援コーディネーターも交えた検討会を開催し、復職に関わる因子として、「患者因子」、「家族因子」、「経済因子」、「職場因子」、「医療因子」と「復職状況」6つの大項目をあげ、この中に14の中項目が入り、全78の小項目を設定した。各小項目には2～5段階評価を与えている。これをもとにデータベースのシステムを構築し、データ登録と分析が出来る状態になった。今後は実際に事例から得られた項目を入力していくとともに、分析を行っていく予定である。

研究分担者：佐伯 覚（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授）

研究分担者：木谷 宏（県立広島大学大学院経管理研究科教授）

研究分担者：八重田 淳（筑波大学人間総合科学研究科生涯発達専攻リハビリテーションコース准教授）

研究分担者：大塚 文（広島文化学園大学看護学科教授）

研究協力者：立道昌幸（東海大学医学部基盤診療学系衛生学公衆衛生学教授）

A. 研究目的

長期療養を要する疾病に罹患した労働者が復職する場合や復職後も働き続けながら治療や療養を継続する場合には、通勤や就労時間の配慮、環境整備等の支援が必要となる。この配慮や支援は、普通は主治医の診断書をもとに、産業医の意見をきいて事業者の判断で決められるが、主治医の診断書が復職の前提条件とはいえその内容は判断に有用とはいえないものも多い。また、復職に関する明確な法律の規定がなく、わが国では産業医が常時関与できていない企業も多いため、休職期間、復職後の就業上の配慮等のばらつきが大きいという実情がある。

脳卒中分野で復職を成功させる要因として、①復

職的な方向性を持ったリハビリの提供、②雇用主の柔軟性、③社会保障、④家族や介護者からのサポート等が挙げられている一方で、医療分野における復職支援の希薄さも指摘されている。この点について主任研究者は、発症早期から医療と職場を繋ぐ「復職コーディネーター」の必要性を強く感じており、平成 22・23 年度に厚生労働省委託事業において脳卒中患者の復職支援モデル事業を行わせていただいた結果、70%以上の復職率を得ることができた。この先行研究の成果をもとに、労働者健康安全機構における治療就労両立支援モデル事業では、平成 27 年度から復職（両立支援）コーディネーターの養成研修を開始したところである。

労働者健康安全機構が実施している脳卒中分野の両立支援モデル事業は、現在、中国労災病院を中核施設として、全国労災病院のうち 10 施設で行われており、職業情報、作業能力評価、介入経過などを記録し、復職 1 年後の定着時点まで介入を続けている。ちなみに平成 27 年度の介入実績は 144 例あり、両立支援に関して問題となる点、有用な社会資源、アプローチの仕方など経験値が集積されつつある。本研究では、多職種による両立支援事例の検討を行い、介入や配慮についての振り返りを行なったうえで入力項目を検討し、両立支援データベースを作成することを目的としている。

B. 研究方法

1) データベース入力項目の設定

産業医科大学の森研究班による復職時点の困難のカテゴリ分類を参考にし、脳卒中患者の復職に関与する因子として、患者因子・家族因子・職場因子・医療因子をあげ、これに復職状況を加えてデータベース項目の素案とした。平成28年9月の第1回班会議で主任および分担研究者で検討した項目をもとに、平成28年11月に開催された第2回拡大班会議では、復職コーディネーター14名も加わって項目について検討し67項目が挙げられ、各項目には3から5段階評価が与えられた。(図1)

2) データベースシステムの作成と検証

平成28年12月からシステムエンジニアが加わってデータベース作成段階に入った。平成29年2月にデータベースの試作が完成した段階で第3回班会議を開催し、入力や解析に関する検討が行われた結果、入力段階でのエラーを減らすためのよりわかりやすい入力項目と評価の見直しが提案されたため、入力項目検討作業部会を立ち上げた。作業部会での数回の検討を経て最終案が策定され、平成29年度前半にはデータベースシステムが完成する予定。

3) 事例集レイアウトの作成

データベースを作成するための両立支援事例は、事例集として蓄積し、データベース項目を検索キーワードとして閲覧できるいわゆる電子事例集のレイアウトも作成した。

(倫理面での配慮)

本研究は、主幹組織である労働者健康安全機構における治療就労両立支援モデル事業に同意を得て登録された事例から検討したもので、本研究で抽出された入力項目は、個人の氏名、住所、電話番号等、個人の特定につながりうる情報が一切含まれていない状態で作成された。

今後、実際に登録されていく事例に関しては、改めて中国労災病院研究倫理審査委員会において審査を受け、承認を得たうえで実施する。

C. 研究結果

データベースの画面構成を図2に示す。ログインは事前に登録したユーザー名とパスワードを入力してからメインメニューに入る設定になっており、パスワードは図3に示すように利用者自身に変更できるようにした。

図4がメインメニューで、事例評価登録、事例検索、パスワードの変更、マスタメンテナンス、ログアウトのボタンを設定した。

図5は事例登録画面である。画面左側は事例のサマリーを入れることができ、右側の入力項目はカテゴリごとに分かれており、評価に当てはまるボタンを選択し入力する。

図6は検索画面である。各入力項目の評価点で絞り込むことが可能である。

図7は事例検索リストで、各カテゴリの因子から絞り込んだ条件に合う事例がリストアップされるようになっている。

図8はマスタメンテナンスメニュー画面で、ユーザー管理や入力項目などの変更や修正が行えるようになっている。

D. 考察

実際の事例を入力していくのはこれからであるが、登録事例が蓄積してくれば、両立支援に関する各因子の分析や、実際に支援している対象者と類似した事例を検索することが可能であることから、よりの確な支援やアドバイスが行える可能性がある。

E. 結論

事例検討を積重ねていくことで、両立支援コーディネーターの質の向上にも結びつくことが期待される。真摯に粛々と継続していきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

図 1

事例登録：評価項目について

- ・評価項目は、78項目あり2～5段階評価を行う

評価項目	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階
事例登録	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階
事例検索	4段階		5段階		6段階
パスワード変更	3段階		4段階		5段階
事例登録・事例検索	3段階		4段階		5段階
事例登録・事例検索	3段階		4段階		5段階
事例登録・事例検索	3段階		4段階		5段階

- ・評価項目は、大分類で6種、中分類14種別に整理する

大分類	中分類
1 事例登録	1.1 事例登録の受付
1 事例登録	1.2 事例登録の完了
1 事例登録	1.3 事例登録の修正
1 事例登録	1.4 事例登録の削除
1 事例登録	1.5 事例登録の検索
1 事例登録	1.6 事例登録の印刷
1 事例登録	1.7 事例登録のメール配信
1 事例登録	1.8 事例登録の連携
1 事例登録	1.9 事例登録の連携
1 事例登録	1.10 事例登録の連携
1 事例登録	1.11 事例登録の連携
1 事例登録	1.12 事例登録の連携
1 事例登録	1.13 事例登録の連携
1 事例登録	1.14 事例登録の連携

図 2

データベース画面構成

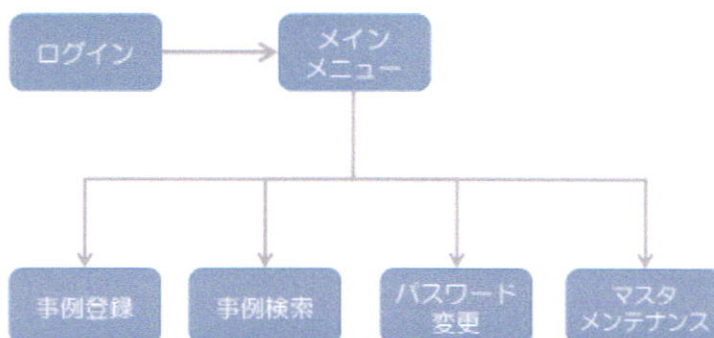


図 3

パスワード変更画面

- 利用者はいつでも自由に自分のパスワードを変更できる
- パスワードは暗号化され、管理者を含め第三者には分からない

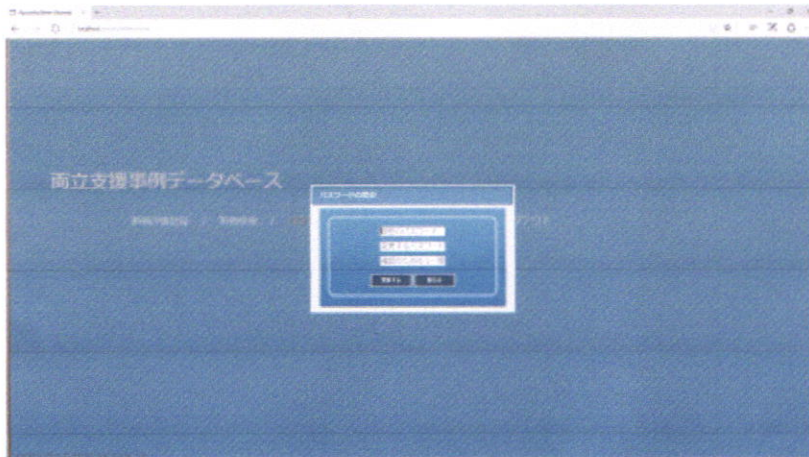


図 4

メインメニュー画面

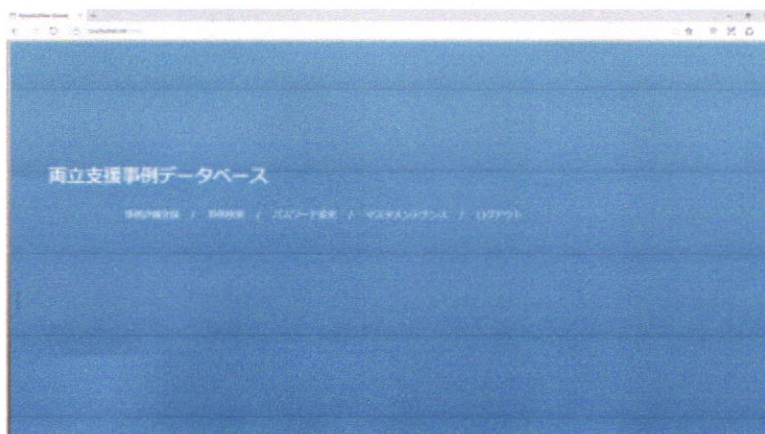


図 5

事例登録画面

- 事例内容の登録
- 各因子分類による評価の登録

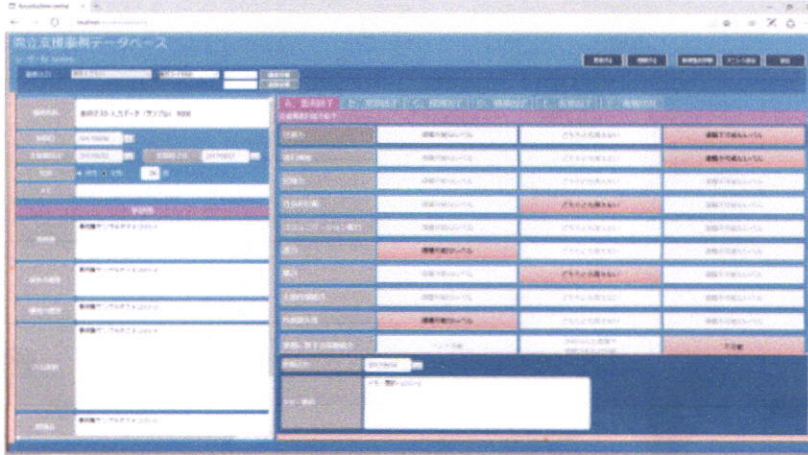


図 6

事例検索画面

- 登録情報の抽出は、評価項目の評価内容別
に出力を行う
- 条件の指定は複数項目の組み合わせで行う

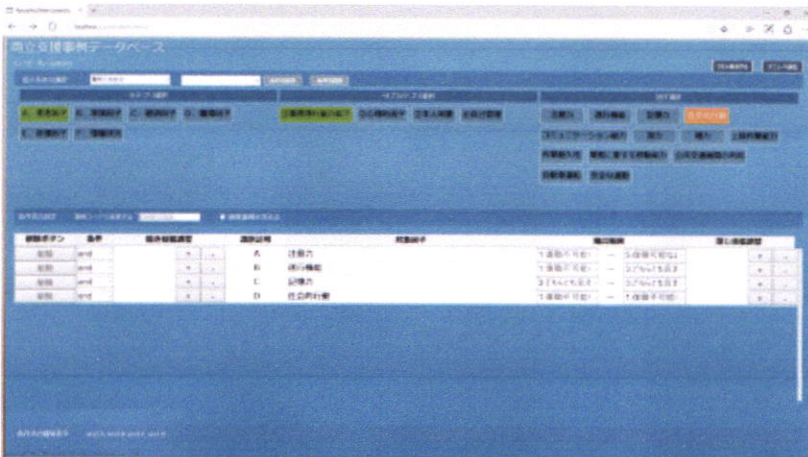


図 7

事例検索リスト画面

- ・リストから編集画面を呼び出し内容に確認と修正を行う
- ・情報をCSV出力しデータの2次利用に活用する

ID	名前	登録日	更新日	削除日
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 900	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 876	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 875	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 824	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 783	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 758	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 732	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 721	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 561	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 464	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 454	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17
20230117	事例テスト入力データ (サンプル) 442	2023/01/17	2023/01/17	2023/01/17

図 8

マスタメンテナンスメニュー画面

各種マスタ情報の管理を行う

- ・ユーザ管理
- ・事例入力セット管理
- ・因子項目管理
- ・事例集項目管理

